

研究区分	教員特別研究推進 地域振興
------	---------------

研究テーマ	保育者の資質向上のための教育プログラム構築				
研究組織	代表者	所属・職名	短期大学部・准教授	氏名	副島 里美
	研究分担者	所属・職名	京都大学 エネルギー科学研究科・教授	氏名	下田 宏
		所属・職名	京都大学 エネルギー科学研究科・助教	氏名	上田 樹美
		所属・職名	九州大学大学 言語文化研究院・研究員	氏名	井上 奈良彦
	発表者	所属・職名	短期大学部・准教授	氏名	副島 里美

講演題目	保育者の資質向上のための教育プログラム構築ーディベート研修のあり方ー
研究の目的、成果及び今後の展望	<p>【研究の目的】 本研究の目的は、保育者の資質向上に向けた研修のあり方を検討することである。この目的を鑑み、本年度は①ディベート研修とピアインストラクション研修の効果比較、②多様性を体得するための尺度（保育フレキシビリティ尺度）構築について調査した。</p> <p>【成果と今後の展望】</p> <p>① ディベート研修とピアインストラクション研修の比較では、「各研修で身につくと感じた能力」、「考えの変化の生起」及び「今後受けたい研修」の項目について調査した。結果、ピアインストラクション研修では「分析力・問題解決能力」が、ディベート研修では「想像力・協調力・傾聴力」の育成に有効である可能性がうかがえた。競技型ディベートは“通常の自分の考え”を振り払い、自分に与えられた側の考え（メリット・デメリット）をまとめ、わかりやすく説明するとともに、相手の考えを推考し、傾聴する中でさらに自分たちの考えを深めていくことが求められる。結果、一度自分の考えを白紙にすることで、短時間での思考が深化し、会話力が育成できる。一方、緊張感やうまく言語化できないもどかしさ、試合に負けた時の敗北感（自分が納得できる表出ができなかった場合は特に）、などもある。これらの点が気になる場合は、自分の発言や時間の制約がないピアインストラクションでじっくりと問題の分析や問題解決を考える必要がある。しかし、今後受けたい研修では「ディベート研修」とする意見が多い（6：2）ことから、その有効性は検証できた。※本研究結果は日本乳幼児教育学会大会で発表した（2023.12月）。</p> <p>② 保育において他の意見をどれだけ柔軟に受け入れられるかの尺度として「保育フレキシビリティ尺度」を考案し、この尺度を検証する方法として実験的に競技型ディベートを2試合行い、1試合前、1試合と2試合の間、2試合後、の3回、アンケート調査を行った。結果、いずれの結果も高い点数で推移し、効果の立証はできなかった。高い点数の要因としては、対象者が3年間で90試合以上のディベート研修を体験している、元来意識が高い保育者であったことがあげられた。今後は対象者や問のあり方などをさらに吟味して、研究を継続していきたい。 ※本研究結果は日本保育学会大会で発表予定である（2024.5月）。</p>